# 平成２２年度 第２回新温泉町行財政改革推進委員会会議録（要旨）

［開催日時］　平成２２年１１月３０日（火）午後３時３０分～５時１０分
［開催場所］　浜坂多目的集会施設　１階　会議室
［出 席 者］　中村委員長、松岡副委員長
　　河越委員、下雅意委員、中澤委員、中田委員、仲山委員、
　　森田委員
　行　政　　田辺副町長
　事務局　　西村総務課長、谷田副課長、朝野係長

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

［会議次第］

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　事
（１）行財政改革実施計画(H18～H21)実績報告（確定値）について

（２）平成22年度(21年度実績）行政評価の実施結果について

（３）第2次行財政改革実施計画 平成22年度進捗状況について

（４）組織・機構の見直しにかかるプロジェクトチームの設置について

４　そ の 他

５　閉　　会

［内　　容］

１　開　　会

２　あいさつ

委員長：過日の新聞記事で、ある町長が過疎地域や離島等については、行政改革でよく言われる「官から民へ」という言葉があるが、こういった地域では不可能であると、依然として官であったり、民から逆に官が役割を果たさなければならないというような話をされていた。過疎地域には未だに活性化の兆しさえ見えていない現状の中で、やはり行政の果たす役割というのは、いか程の行政改革と言われても行政の力というものが地域活性化への力かなという思いをしたところである。過疎地域を抱えている当町の行政改革が予算の切捨て、地域の切捨てにならないようにしていただけたらという思いをしているところである。単なる事務事業の推進の結果にならないような委員会のあり方でなくてはならないという思いもしているところである。

今日は、春に続いて２回目ということである。これらの実績についてご協議いただきたいと思っている。よろしくお願いしたい。

副町長：今日は、臨時議会を設定していただいたということもあり、こちらの会議の時間帯が変更となり、委員のみなさんには大変ご迷惑をおかけした。また、時間の調整で出席できなくなった委員もおられるようで大変ご迷惑をおかけしたことと思っている。

今日は、２２年度に入って２回目の行財政改革推進委員会ということである。みなさんには、お忙しい中ご参加いただきありがとうございます。今日は、第１次の実績の確定値をつけさせていただいた。それらの報告と２２年度の行政評価の実施について報告をさせていただきたい。また、町としても組織・機構の見直し、或いは事務事業の見直しをして、行政改革の一つの大きな糧にしていきたいということで、プロジェクトチームの設置についてご報告をさせていただき、今後、検討に入っていきたいと考えている。そうした動きの中で、委員のみなさんにもいろいろとご意見をいただきながらこの推進委員会を進めていきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

３　議　　事

（１）行財政改革実施計画(H18～H21)実績報告（確定値）について

（２）平成22年度(21年度実績）行政評価の実施結果について

（(1)、(2)続けて事務局説明）

・主な意見等

＜平成22年度(21年度実績）行政評価の実施結果について＞

委員：４つの評価項目があってその組合せで総合評価が決まると思うが、その基準はあるか。

事務局：職員向けにマニュアルを配布している。その中に、必要性と有効性の合計点と達成度と効率性の合計点による目安の評価を示している。必要性と有効性の合計点が高いものは、達成度と効率性が低くても評価の判定としては高く出るようにしている。（後でマニュアルの表を、委員へ配布）

委員：資料の中を見ていると業務のルーチンワーク的なものがい多いように感じた。〇〇補助事業などのように。もちろん効率化とか考えられるものがあると思うが、課のチームの中で解決できるランクものと、こういうテーブルに乗せないといけないものを仕分けしたほうがいいのではないか。あまりにもたくさんすぎる。一つの課でこれだけ課題を持って行政改革しないといけないんだと抱え過ぎにならないか。あれもこれも評価しても日常の頭の中に残りにくいのではないか。資料を作るのも大変である。何年か行政改革を進めて、職員がその手法に慣れたら、そろそろテーブルに上げなくていいものの精査をされてはどうか。

委員長：３ページに婦人会育成事業があるが、現実は組織が解体していって、必要性は求められるが、町から各組織の事務局を返上するというような体制をとったために、つぶれていく組織と可能な組織とに分かれてしまっている。実際、評価としては「Ａ」となっているが、こういう評価でいいのかと思う面もある。

委員：本当に町にとって必要で、本来であれば行政がすべきものを代行しているような性格の団体、自発的な団体と分けてみて、何が何でも一度できたらずっと続けないといけない、気づいてみたら各課が事務の代行をしてあげていたなど、補助金という制度にそぐわないような実態になっているのではないかというようなことが以前、話題となった。よく自立支援という言葉が書いてあるが、自立というのは、自分で立つことと、自分で律するということの２つが必要である。自発的に必要な組織は支援してあげたらいいが、何かわからないが実態と名前だけが残っているような団体はもうそろそろ整理したほうがいいのではないか。

事務局：８月に各課に各種団体の事務局の状況の調査を行っている。現在は取りまとめた段階である。今後は、各課とヒアリングを行うなどして事務局のあり方というものを見直していきたいと思っている。

　評価対象事業の選定については、内部からも意見をもらっている。そこに踏み切れてないが、その準備ということで、今年度から評価シートに事業区分という欄を設けて任意の事業であったり義務的な事業に区分けをさせていただいている。この辺りで絞り込むことは可能である。対象事業を絞るか、全事業対象のまま進めるかは、今後検討していかないといけないと思ってい

る。

委員：この評価システムはどこかから購入したものか。
事務局：他の自治体の取組や、参考書類を見て担当者が作成したものである。業者から購入したものではない。

**（３）第2次行財政改革実施計画 平成22年度進捗状況について**
（事務局説明）

・主な意見等
**＜ホームページについて＞**
委員：ホームページの媒体は、これから非常に重要な位置を占めると思うが、これの作成、管理は全て職員が行っているのか、外部に委託しているのか。
事務局：新しく作り直す部分は業者委託となっている。日々の情報の更新は職員が行っている。
委員：それを職員が全てできるように、それだけの能力を持っておられる方がいると思うので、その辺りどうかと思う。費用もかかっていると思う。
事務局：職員が一生懸命直営したが、議会からホームページが見にくいのでお金をかけるよう意見をいただいている。

**＜出前講座について＞**
委員長：出前講座20件では少ないのでは。特にジオパークなどはいい面があると思う。
副課長：20件は10月末の実績である。昨年度実績は19件である。

**＜ボランティア活動への支援について＞**
委員：ボランティアの項目があり、ボランティアの制度が入ってくることはいいことだと思う。
　余部道路ができたら、この道路を通って浜坂にお客さんを連れて行きたいという、山専門の神戸の旅行業者から連絡があり、私でよければということで、三成山と城山と観音山を社長と歩いた。今は、山に行きたいという中高年が多く、マイクロで２０人ぐらいを但馬に連れてきている。城山は素敵なコースだと話されていたが、栃谷バイパスにバイカモの看板がない点、三ヶ所の山に上がって公衆トイレがない点、観音山も看板がないため頂上に行く道が分からない点、お昼に手軽に入れる店がない点を話されていた。公衆トイレはオフィシャルで行けるところはジオパーク館しかないねという話になったが、外の業者が分かりにくくてジオパーク館に一発で行けれない。ボランティアを育成するのはいいのだが、そういうボランティアが外とどうい

うアクセスをして、どういう情報を持って町にフィードバックするかということを考えないといけないと思う。

委員長：今のご意見だが、ジオパークの認定と併せて、ホームページを使ったり、情報提供なり資料提供ができるようにしては。

事務局：誘導サインはまちづくり交付金事業で予定している。遊歩道のマップは前からあると思う。

委員：余部道路ができたら是非来たいと言っている。ボランティアを何人育成したではなく、一歩先の図書館、先人記念館などのボランティアから、意見を吸収するよう取り組んでほしい。

委員長：島根県など観光パンフの作り方の上手い県がある。山、寺、遺跡など分野毎に歩くマップを作るような感じで丁寧な観光資料を作っている。他の資料を参考にボランティア育成に頑張っていただけたらと思う。

委員：ボランティアセンターは社協となっているが、実質的な稼働状況というものがどうなっているのか、各種ボランティア団体の人が、どういう満足感を持っているかと思う。

委員：情報が行き交わない。ボランティアに限らずだが。どのような団体も重なるところがあるが、自分たちの満足度で終わっているところがあるので、発展せず、どっちかというと後退していくという感じがする。

委員長：社協が事務局で、限られたボランティアとなってしまっているかもしれないが、ボランティア組織の活動支援ということがよい判定となるようにしてほしい。

事務局：社協にはボランティアコーディネーターが設置されていると思う。

委員：社協のボランティアは限られている。一部の限られたボランティアが多く、それ以外については手広くではないので、社協が窓口を持っていると言われても、そこに行きてもないもののほうが多いと思う。今のままだと増えていかない。

委員：社協は給食ボランティアなどで手一杯ではないか。

委員長：ボランティア活動ということでは、事務局は社協であるが、こういった状況があるようなので、活動への支援という項目が挙がっている以上、あり方を検討していただきたい。

**（４）組織・機構の見直しにかかるプロジェクトチームの設置について**

（事務局説明）

・主な意見等

**＜定員適正化計画について＞**

委員：職員の定員適正化で、22年4月の309人から27年4月に278人にするという

ことだが、これは住民人口によって変わるのか。
事務局：類似団体という調査があり、人口規模、産業構造等で標準的な数値が出ている。
委員：今度の国勢調査でどういう人口になるだろうという前提のもとに計算しているのか。
事務局：計画策定時の標準団体の職員数である。具体的には、平成17年4月1日現在の新温泉町ぐらいの人口規模等で算出している。
委員：国勢調査で、17年と比べたら千何百人減っていると思う。
事務局：市役所等の職員数も減ってきているので、これ以下になる可能性はあるが、まだ大きな乖離はない。

＜窓口サービス等について＞
委員：町民にすぐ関わりがあるところで、町民課、福祉課又は健康課に行くのかというような、行政ではきっちり分けられているだろうが、町民が自分が困ったことを相談に行くときにどこの課に行ったらいいのかというのが分かりにくい。
委員長：名称が重複している部分もあると思う。町民課が福祉を担当していたようなこともある。
委員：これから高齢社会となって、役場に相談に行きなさいとなってもどこに行ったらいいでしょうというようなことになる。
事務局：例えば、総合窓口を設けるというようなことも一つの方法である。
委員長：管理職クラスを上手に使ってはどうか。ある程度、総合的に判断できる人に相談できたら、あっちこっちということを言わなくて済むのではないか。大きな市になると、窓口にフリーな人がいて、接客が上手いし指導も上手くする。気が付いたらさっと対応するような、オールマイティーな職員を育ててはどうか。

＜行政評価について＞
委員：プロジェクトチームを作って、こういう事務事業評価をしなさいと、これ自体がかなりの分量の業務の過重だと思う。事業仕分けをして、A評価を外していかないと。達成指標など自己目的化している。チラシを撒けばいい、ホームページを安く作ればいいというのが、果たして目標なのか。自己目的化すると、官僚組織は肥大化する。本来のアウトプットは何であろうか。
委員長：行政評価のシステム自体がそうなっている。
事務局：職員の意識改革、住民への説明責任の向上などの目的があるが、確かにかなりの事務量である。改善を図っていなないといけないという思いはある。
委員：A評価が多く、自己評価が甘い。重点的なものに絞ればいいように思う。

これを人事評価に入れれば、ますます自己目的化して、どっちを向いているかわからなくなる。それは怖いので、あまり提案できないが。

委員長：職員が変われば行政は変わる。民間であろうと行政であろうと同じであると思うが。行政改革の目的達成いかんに関わらず、今日のご意見を参考にしていただきたい。

## ４　そ の 他

## ５　閉　　会

副委員長：時間の変更で来にくい方もあったと思うが、出席いただきありがとうございます。今年もあと残すところ１ヶ月となり、気忙しい気持ちになってくるが、健康にご自愛して過ごしていただきたい。